

(様式1)

令和2年度 学校評価結果報告書 (高等学校用)

(1) 学校教育目標	<p>勤労を尊び、品性豊かで情操と創造性に富み、次世代を担う調和のとれた工業人の育成を目指す。</p> <p>(1)品性の陶冶に努め、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒を育成する。 (2)個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う。 (3)真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。</p>
(2) 現状と課題	<p>・ 基本的生活習慣が身につけている生徒が多い。各種資格取得やものづくり教育等に積極的に取り組み、成果を上げている。</p> <p>・ 希望進路実現については良好で、早期の達成状況となっている。</p> <p>・ 生徒個々の希望進路実現に向け、基礎学力の定着及び専門的な基礎技術・技能の定着・向上を目指した、組織的な指導体制の更なる強化構築を進める。</p>
(3) 重点目標	<p>1 多様化する生徒一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の定着に努める。 (学習指導の充実)</p> <p>2 生徒自らが自己実現を図っていくための力の育成を図り、健全な学校生活を確立する。 (生徒指導の充実)</p> <p>3 進路目標実現に向けて、生徒・教職員・保護者が共に早期から取り組む、計画的・組織的・継続的な進路指導の推進に努める。(進路指導の計画的・組織的な指導)</p> <p>4 教職員のものづくり技術向上を推進するとともに、生徒が工業学習への意欲が向上するような指導に努める。 (ものづくり教育の充実)</p>
(4) 結果の公表	<p>学校関係者評価 (保護者アンケート 等) の結果とともに、ホームページへ掲載して公表する。</p>

学校整理番号	46
学校名	青森県立弘前工業高等学校
全日制の課程	校舎
自己評価実施日	令和 3年 1月13日(水):総括に向けた校内研修会 令和 3年 1月25日(月):学校総括評価会議
学校関係者評価実施日	令和 3年 2月 2日(火)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
<p>学校評議員 5名 (保護者、地域住民、大学等の教育関係者、いじめ防止専門委員 等) 学校関係者10名 (校長、教頭、事務長、関係分掌主任 等)</p>

自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	学習指導の充実	<p>① 基本的な知識・技能の定着と活用力を育む指導及び評価の工夫改善に努める。</p> <p>② 各分掌間等の連絡調整に努め、円滑な学校運営を図る。</p>	<p>① 生徒の実態を踏まえた教材の精選や、研究授業による授業改善を実施している。評価と指導の一体化のため、新入生にシラバスを配付して到達目標を明確化し、定期考査前の講習会等で生徒の学習意欲を高めることができた。また、学びの基礎診断後の分析会を実施した。</p> <p>② 校内成績処理システムの安定稼働と校内情報システムの活用により、業務の効率化に取り組んだ。弘工高ポータル利用率は前年より向上している。</p>	A	<p>生徒の研究発表会を見たところ、様々な視点で研究製作活動がなされ、堂々と発表していた。日頃からの実技を伴う授業と新指導要領の実施に向けた、対話的・深い学びに繋がる学習がなされていることと思われる。今後も続けて欲しい。</p>	<p>・ 基礎的知識・技能の定着と活用力を育む指導及び学習評価と授業の改善に取り組む。</p> <p>・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業及び学習意欲を高めるための工夫。</p> <p>・ 円滑な学校運営のための分掌感の連絡調整に努めるとともに、ICTを活用した業務の効率化。</p>
2	生徒指導の充実	<p>① いじめ防止対策推進法に則した組織的な校内での体制・取組強化を図る。③ 自転車事故等の未然防止を目指す。</p> <p>② 望ましい集団活動(特別活動等)を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。</p>	<p>① 教員間の連携強化に努めたことで、事例の早期解決ができた。③ 安全教室等を活用した意識の啓発と、通学路危険予知マップ等の活用により自転車事故件数の減少に繋がった。</p> <p>② 常に適切な助言指導を行うことにより、生徒の自主的・実践的活動が促された。</p>	B	<p>様々な行事や大会の中止により高校生本来の活動ができず、生徒のメンタルが心配である。保健室利用が多いのもコロナが影響しているのではないかと。メンタル不調をきたしている生徒や多様化する生徒に対し、スクールカウンセラー等を活用した内面的なケア、いじめの無い環境づくりに努めて欲しい。</p>	<p>豊かな学校生活を目指すうえで以下の目標を継続指導していく。</p> <p>・ 基本的生活態度の育成を目指す。</p> <p>・ 規範意識の啓発を目指す。</p> <p>・ 事故防止のための指導徹底を目指す。</p> <p>・ 生徒会諸行事の活性化を目指す。</p> <p>・ ホームルーム活動の活性化を図る。</p> <p>・ 部活動推進と強化に努める。</p>
3	進路指導の計画的・組織的な指導の推進	<p>① 生徒個々の希望進路実現に向けて、進路意識の早期啓発を図り、継続的な進路指導を行う。</p> <p>② 保護者に対しても、早期の進路情報等の提供に努め、より良い生徒の自己実現を目指す。</p>	<p>① 生徒の希望進路実現のための指導を継続し、早期に進路意識の啓発を図る。職業観の育成や地元企業理解を目的とした企業見学会等を実施した。国公立大学進学希望者に対する講習会を計画し、実施した。</p> <p>② 2学年を対象に、4者面談(生徒・保護者・担任・科主任)を実施。学校公開日に保護者対象の進路説明会、学校行事日等での来校保護者に進路指導室を開放し個別説明会を実施した。2学期末には進路通信を発行した。</p>	A	<p>就職が決まって企業へ送り出す段階に来ているが、コロナ禍の状況で送り出すのは気が進まない。企業からの内定後の動きを教えて欲しい。また、地元企業理解促進に向けた取組として、今年度はコロナのため実施できなかったインターンシップ等を活用していただきたい。</p>	<p>・ 生徒の希望進路の決定実現を目指す。</p> <p>・ 地元企業理解促進を図る。</p> <p>・ 高大接続改革における大学入試多様化へ対応できる環境の構築を図る。</p> <p>・ 将来の生き方に結びつくキャリア教育を推進する。</p> <p>・ 保護者との協働・連携・信頼に努め、生徒の進路指導の充実を図る。</p>
4	ものづくり教育の充実	<p>① ものづくり教育や資格取得等を絡めた学習指導を基盤にし、工業技術・技能の定着度の向上を目指す。</p> <p>② 指導者の指導力向上と人材育成を図る。</p>	<p>① ものづくりコンテスト東北大会：電子機器組立部門・木材加工部門出場。ものコン2020東北大会予選(青森県大会)：測量部門2位。資格取得では、指導を通して生徒に身に付けさせたい力を明確にし系統的な指導を行い実際に進路に結びつけている。</p> <p>② 今年度は新型コロナウイルスにより、県外への指導者技術講習会への参加などが見送られなど、十分な人材育成の充実ができなかった。</p>	B	<p>講師派遣の溶接実技指導は、現場での実践技術を直接見て指導してもらえる絶好の機会と捉えている。生徒の技術力向上や就職希望の変化などからも有効と思われることから、今後も続けて欲しい。研究成果発表会では、日常から培われたものづくりの精神が発揮され、良い結果に繋がった。今後も期待したい。</p>	<p>・ 基礎技術・技能の定着と職業観の育成を目指す。</p> <p>・ 地域・産業界等との連携強化を進める。</p> <p>・ 安全作業の徹底を目指す。</p> <p>・ 資格取得の奨励と、ものづくり教育の充実を目指す。</p> <p>・ 指導者の技術・技能の向上、自己研鑽に努める。</p> <p>・ 教職員の指導力向上に向けた校外研修を推進する。</p>

(11) 総括	<p>1-1 生徒の学力定着を目指し、評価と指導の一体化を根幹にした授業改善を進めた。シラバスにより各教科・科目の学習到達度等を明確にし、定期考査前等の講習会等で生徒の学習意欲を高めた。(教務部)</p> <p>1-2 各教科からの要望により図書の購入に努めた。図書館の利用に関しては、授業でも利用してもらう機会が増えている。芸術鑑賞はコロナウイルスで中止となった、来年度は状況を見ながら実施したい。視覚機器の点検も行き、各種行事等で利用した。(図書・視聴覚部)</p> <p>2-1 予防的生徒指導の確立を目指した。全職員との共通理解を図ることで生徒理解も深まり、いじめやトラブルなどの早期発見・問題解決に有用であった。(生徒指導)</p> <p>2-1 心に悩みを抱えている生徒、保護者、教員に対し、教育相談、スクールカウンセラー等を活用し問題解決に努めた。次年度も関係機関との協力体制を密にし、生徒等の悩みをサポートしたい。(保健部)</p> <p>2-2 様々な特別活動を通して、教師と生徒間の信頼関係作りに努め、学校行事の活性化に努めた。次年度も生徒会を中心に学校諸活動の活性化に努めたい。(特別活動部)</p> <p>2-3 新学習指導要領を踏まえ、後援会事業を中心に教育機器の整備を段階的に整え、特色ある教育課程編成推進に寄与する。(渉外部)</p> <p>3-1 卒業生全員の進路決定実現をめざし、進路達成を成し遂げた。職員間の情報連携強化に努めた。保護者への進路等に関する情報発信の場(学年保護者集会、中学生体験入学、公開授業日等)を継続して実施した。(進路指導)</p> <p>3-2 キャリアカードの活用を促し、生徒自らが資格取得や実績、成果を管理できる環境作りに取り組んでいる。また、進路通信を発行し、進路情報の発信・提供・共有に努めている。今後も継続して進路活動の「見える化」に取り組み、組織的な進路指導の充実を図る。</p> <p>4-1 ものづくり教育や資格取得を絡めた工業教育に取り組んだ。ものづくりを通し、勤労観を養い、品性豊かで情操と創造性に富んだ、調和のとれた工業人の育成並びに人格形成を継続して進める。(工業科総括)</p> <p>4-2 教職員の指導力向上を目指し、計画的な研修計画を組んだが、コロナの影響で校外研修がほとんど実施できなかった。次年度はリモート研修などの情報を収集し、授業力を高める研修の充実を図っていききたい。(教務部・研修)</p>
---------	---